



PICC(ピック)を広めよう!

PICC(Peripherally Inserted Central venous Catheter)とは、上腕の尺側皮静脈や橈側皮静脈から中心静脈に留置する末梢挿入式中心静脈カテーテルのことです。PICCの挿入には超音波ガイド下穿刺が必要ですが、特定行為研修を修了した看護師さんも挿入することができます。PICCを広めて安全なカテーテル管理をしましょう。

主な適応

- 高カロリー輸液が必要な場合(末梢静脈栄養で2週間以上経過した場合)
- 末梢血管確保が困難な場合
- 末梢静脈投与では血管炎の危険性がある薬剤を投与する場合

管理方法

感染予防と感染兆候の早期発見・対応が重要です。感染は「**刺入部位**」「**接続部**」「**薬液**」の汚染が機序となり発生します。清潔に取り扱い、観察は正しく、持続的に行うことが大切です。感染以外にも、**PICCは縫合固定がされていない**ため事故(自己)抜去にも注意しましょう。

左尺側皮静脈から挿入したPICCの固定



観察ポイント!

ドレッシング	剥がれ、血液などの汚染
カテーテル	緩み、ねじれ、汚染
刺入部と皮膚の状態	熱感、腫脹、発赤、疼痛、出血、浸出液、浮腫



注意すべき合併症

- 血栓症、静脈炎、皮下出血・血種
- カテーテル関連血流感染症
(CRBSI: Catheter related blood stream infection)

PICCは、鎖骨下穿刺や内頸穿刺で起こり得る気胸・血胸は発生しませんが、細い血管に留置するため血栓や静脈炎の頻度が高いと言われています。また、CRBSIの発生率は鎖骨下や内頸ルートのは半分以下ですが、適切な管理、**不要な中心静脈カテーテルは早期に抜去**することが大切です。

<ひとロメモ>

中心静脈カテーテルからの採血は、感染リスクの上昇や薬剤による検査データへの影響から基本的には推奨されていません。しかし、小児領域では穿刺の苦痛や頻回の採血による静脈閉塞を避けるために行われる場合もあります。

【編集後記】

PICCってなんだか難しそうなイメージがありますよね…。まずは基本から理解しましょう!不明点があればお気軽にお声掛けください。

NST委員会 三松(外科)、田中(4C)、今井(3C)